飢餓対策 NEWS　第 244 号　発行日 2010 年 10 月 20 日（毎月 20 日発行）定価 15 円

日本国際飢餓対策機構（Japan International Food for the Hungry：略して JIFH）は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体 (NGO) です。1981 年にひとりの日本人がインドシナ難民救援に参加したことを契機として誕生しました。以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、人財育成、海外スタッフ派遣、飢餓啓発などに活動を広げてきました。現在は、国際飢餓対策機構連合（Food for the Hungry International Federation）の一員として、18 ヶ国 55 の協力団体とともに、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、現地パートナーと協力しあって、「こころとからだの飢餓」に応える働きをしています。

### 新デザイン
## 2011 国際協力カレンダー お早めにお求めください！

７ヶ国の民間援助団体の共同制作。
以下の点が新しくなりました。

⦿写真がワイドになりました！
写真の美しさや迫力がよりダイレクトに伝わるよう、横幅を広くしました。

⦿数字クイズで世界を知る！
世界の現状クイズを各月に掲載、数字を通して新しい発見ができます。

⦿マンガのみなみくんも登場
表紙の裏ページは、子どもニュースでおなじみのみなみくんのまんがになっています。ご家庭にまたはプレゼントにご利用ください。

今年よりお求め先、振込先が下記の協力企業に変更しております。当機構にお振り込みなさらないようにご注意願います。

■お申込み・お問合せ先
制作販売：㈱キングダムビジネス
TEL（072）940－6814
FAX（072）940－6824
ホームページからのお申込みは
http://www.kbwin-win.org/

### ハンガーゼロ・ポスター進呈！

ハンガー・ゼロ・アフリカの運動を広げていくために、ポスターを掲示していただける方にポスターを無料で差し上げます。各事務所またはメールで受付ます。サイズは A2 版となります。

### 韓流タレントのイベント延期

先月号でお知らせしました韓国の俳優のチョ・ミンギ氏による「写真展」および、韓国人歌手 Sohyang のコンサートは、来春以降に延期となりました。

## ハンガー・ゼロ・サポーター大募集中！

**今すぐ▶▶▶ 各種支援のお申し込みができます!!**

●まず右の必要事項に記入して、点線の枠部分を切り取りハガキに貼って、下記の大阪事務所宛に郵送、又はこの頁をコピーして、ファクシミリで申し込みください。確認のための必要書類等を送らせていただきます。
**お電話でも申し込みできます。各事務所までおかけ下さい。**

□ ハンガー・ゼロ・サポーターとして協力します。
毎月（　　）口、協力します。（1口 1,000 円）
□ JIFH会員になり毎月定期的に財的協力をします。
毎月（　　）口、協力します。（1口 500 円）
□「世界里親会」に協力します。
説明書、里親会入会申込書を送ってください。
□ 海外派遣スタッフを支援します。
毎月（　　）円（　　）スタッフ指定
□ 海外派遣スタッフを支える会の会員になり、
協力します。毎月（　　）口（1口 1,000 円）
□ 郵便自動引落の申込書を送って下さい。

氏名（フリガナ）：　　男・女
〒
住所（フリガナ）：
（電話）
▼申込日：　　年　月　日▼

**FAX・072-920-2155**

### 世界食料デー 神奈川 湘南大会開催 キャンパスから世界へ

10月16日の世界食料デー湘南大会、今年は地元・文教大学湘南キャンパスを会場に開催されました！地域の実行委員会に学生も加わり、青年から年配の方まで様々な年齢層の方々が協力し、この日のために準備を進めて下さいました。

当日は涼しい風が吹く秋晴れの中、緑に囲まれたキャンパスで当機構親善大使・森祐理さんをゲストに、音楽と海外現地報告のプログラムが行われました。

森さんは、訪問されたエチオピアやカンボジアでの体験を元に講演、また“マザーテレサの祈り”やみんなで手話を習いながらの“世界はひとつ”等の歌など楽しい中にも、世界の飢餓と貧困の中に生きる人々に心を向けることができた大会でした。「わたしにも何かが出来る。同じ地球に住む互いが、愛を分かち合い支え合いたい。」 そんな希望をいただいた豊かな時間を持つことができました。

★ご協力を感謝します★皆様に飢餓対策ニュースをお届けするために、毎月、ひばり障害者作業所（八尾市）、生活愛（大阪市など）、そして関西一円のボランティアの皆様が発送作業のご協力をして下さっています。ありがとうございます！

■発行者　岩橋竜介
■発行所　一般財団法人　日本国際飢餓対策機構
Web サイトアドレス　http://www.jifh.org/
e メールアドレス　general@jifh.org
■郵便振替　00170−9−68590 ／日本国際飢餓対策機構
※支援金は随時受け付けております。

大阪　〒581-0032 八尾市弓削町 3-74-1
TEL (072)920-2225　FAX (072)920-2155
東京　〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1 OCCビル 517 号室
TEL (03)3518-0781　FAX (03)3518-0782
愛知　〒466-0064 名古屋市昭和区鶴舞 3-8-10 愛知労働文化センター 2F
TEL (052)731-8111　FAX (052)731-8114
広島　〒731-0103 広島市安佐南区緑井 2-21-23 201 号
TEL (082)831-1214　FAX (082)877-3961
沖縄　〒901-0156 那覇市田原3-8-1 ユリ香ハウス 201号
TEL (098)859-4585　FAX (098)859-4540

携帯サイト

日本国際飢餓対策機構
2010 No.244　11

# 飢餓対策News

西アフリカ・ニジェールの村の人々

## 日本の皆さんありがとう！

ボリビアのチャヤでのJIFHの活動が10年経ち、村の様子もすっかり変わりました。高校の卒業生がたくさん生まれ、立派な学校寮もできました。郡政府が今年からJIFHが支援してきた学校の給食支援を彼ら自身が行うと約束しました。またスクールバスが通るようにもなりました。この地ではJIFHから派遣された清水美穂さんに始まり、藤倉恵子さん、河合朝子さん、そして現在活動中の小西小百合さんたちが標高4,000mのチャヤ駐在スタッフとして忠実に働いてこられました。

現在小西さんと共に働いているスタッフのエドワルドはこのチャヤで世界里親会の活動が始まった当時、地元の小学校を中退して町で働いていました。

しかし、ボリビア人スタッフが町でたまたま彼を見つけ、地元の小学校に中高等科ができるので、村に戻ってくるように励まし続けたそうです。彼はその励ましに応え、家族の元に戻り勉強を再開し、すべての学科でトップの成績を修めました。

エドワルドは意思を込めた鋭いまなざしで私たちにこう語りました。「清水さんや藤倉さんを始めFHのスタッフが絶えず我々地元の人に語っていたことは『あなた方の中に神様が与えてくださった可能性がある』だった。その言葉に最初は半信半疑だった。しかし村の様子が変わっていくに連れ、本当にそう思えるようになった。それまで、この地を訪れたNGOの人は決してそんなことは言わなかった、彼らは自分たちがやりたいことだけをやり、私たちの生活にはほとんど目を向けなかった」と。彼自身小さな頃からこの地域で育ち、村の変化を目の当たりにしてきました。

「遠くの日本の皆さんが私たちに目を留め、支援を続けてくださったおかげで、多くの子どもたちが学校で学ぶことができました。だから日本の皆さんに伝えてほしいのです。心からのありがとうを」彼はその後何度もMuchos Gracias!と私たちに言ってくれたのです。皆様の応援が着実に実を結んでいます。

日本国際飢餓対策機構　常務理事　清家弘久

1 分間に 17 人（うち 12 人が子ども）・1 日に 2 万 5 千人・1 年間では約 1,000 万人が、飢えのために生命を失っています。

# 大地震の被災地緊急支援とその後の状況

**ハイチ**
**大地震**
**2010.1.12発生**
**M7.0**

2010年にはハイチ、チリ、インドネシア、中国で大きな地震があり、多くの方が被災されました。当機構では、皆様のご協力により被災者の方々に現地協力団体を通じて緊急支援を行うことができました。中国青海省とハイチから、およそ半年後の被災地の様子の報告が届きましたのでお知らせいたします。なお、ハイチ、中国への緊急募金の受付は終了しております。皆様の温かいご支援を感謝いたします。

ハイチ大地震後６ヶ月レポート
ハイチ飢餓対策機構スタッフ
（2010年７月12日付）

## 震災後６ヶ月間の活動

【負傷者の治療など】

・移動クリニック及び短期医療チームを通じて10,300人に医療を提供、現在も継続中。地域の5病院と２つのクリニックに、医薬品を提供。

【保健・衛生】

・1700人の女性リーダーに基本的な衛生について指導。女性リーダーは、それぞれがボランティア10人に教え、計17,000人が学んだ。

【食糧以外の配給物資】

・3,600以上の家庭に、防水シート、ポリタンク、衛生キット、食器などを配給。
・一日に960Lの水をろ過できるシステムの提供。

【子どもの保護】

・子どもが安全に遊べるスペースを65ヶ所設置し、9,750人の子どもが利用。
・1,290人のボランティアに子どものレクリエーションを指導。トラウマのある子どもに専門のカウンセラーを紹介。
・地域ボランティアと151人のコミュニティーリーダーにDV、性差別・暴力、子ども売買の予防法について指導
（FHの活動地域の1つは、都市部の家庭で奴隷として働かせるために多くの子どもが拉致される地域。またドミニカ共和国との国境地帯の活動地は、労働力として児童をハイチから海外へ「輸出」することが最も活発に行われている所である）。

子どもたちへのケアも続けられています

【一時避難施設】

・シェルター建設320戸

シェルターの建設の様子

【現金収入のための仕事】

仕事を与えられたことで現金収入を得た人々が、食糧等を購入して地域経済を活性化させる。
・瓦礫撤去作業の仕事を提供（1241戸分の瓦礫を撤去）、それにより人、物の移動が可能になり復興がスムーズに。この仕事に1600人（4割が女性）が参加。

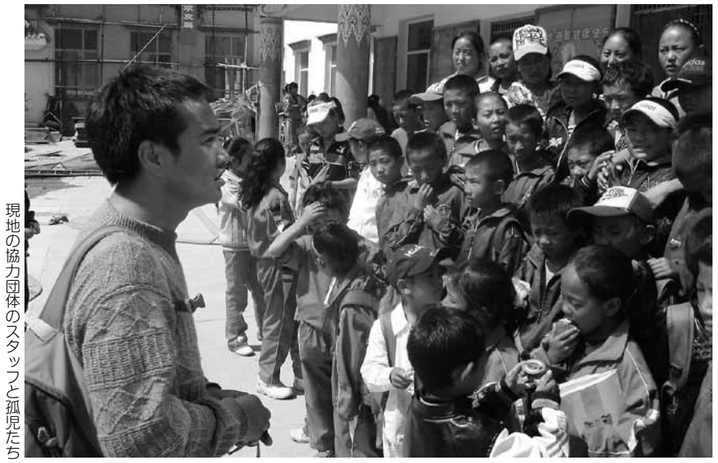
【地域教会との協力】

・地域教会の協力で、地震発生直後の被災状況の把握が可能に。
・教会が物資の配給センターとなった。
・子どものためのスペースのほとんどは、教会の敷地に設置され、教会ボランティアとリーダーが子ども達を指導。

以上の他に、パンの缶詰40,000缶がパン・アキモトから提供され配布。

**ハイチ大地震**

被害：死者23万人　負傷者30万人　家を失った人100万人
ハイチ国際飢餓対策機構の支援地域：
- ポルトー・プランス郊外、ペションビル郊外
- ベル・デア：ドミニカ共和国との国境地域で５万人が家を失ない、12万人が長期的支援を必要としている。


現地の協力団体のスタッフと孤児たち

**中国**
**青海省大地震**
**2010.4.14発生**
**M7.1**

日本国際飢餓対策機構
中国駐在スタッフ
中上幸三

9月15日から17日まで『青海省地震』で被害が最も大きかった玉樹（ユーシュ）チベット族自治州玉樹県結古鎮を訪問した。

家屋の90%以上が倒壊したと報じられた市街地では、大規模な再建工事がいたるところで進められていた。政府の建物は勿論のこと、病院や学校、市場などの公共施設はみなテントや臨時に建てられた簡易家屋を使って運営。

被災した人々は、今も災害救助用テントを住まいとして生活しており、特に緊急避難先として指定された町はずれの広大な敷地では、巨大なテント集落が形成されていた。

玉樹の町は海抜約3,700mの高地。現地の協力団体（NGO）『慈行喜願会』では、被災する以前から28人の孤児たちを世話していたが、地震によって家族を失った22人の孤児たちが新たに加わり、合計50人の子どもたちが支援を必要としている。

孤児院は倒壊し、ボランティアスタッフ一名が犠牲となった。孤児たちは緊急避難所で２～３ヶ月のテント生活をした後、現在は青海省の省都『西寧』から約80㎞離れた別の町にある福利施設に収容されて、現地の学校で勉強を続けている。

現地NGOでは復興支援活動として、被災者の人々に、暖房用燃料として石炭の配布を計画。12月初旬に実施する予定で、40トンの石炭を購入し、400家族、2700人の被災者の方たちの暖房支援を行う。

水を汲む被災者（『テント村』で）

玉樹の街のテント市場

# 「何がないかではなく、何があるか」

持参したパンの缶詰を受け取り喜ぶ子ども

## ニジェール訪問報告

日本国際飢餓対策機構
理事長　岩橋竜介

**JIFHは今、ハンガーゼロ・アフリカに挑戦しています。途方もないアフリカの飢餓の問題。しかし、何かをしなければ始まらないのです。私たちはそう信じて、まずは世界で最も貧しい国の一つであるニジェールから始めることにしました。**

**ニジェール。サハラ砂漠の南側に位置し、サヘル地域と呼ばれるところにある国。日本の国土のおよそ3.4倍の国土がありながら、人口は約1,400万人。その一人あたりの年収が330ドルですから、1ヶ月に2,200円ほどの収入です。かつてのフランスによる支配、内戦、政権交代などを繰り返し、政治的にも不安定なために、今もなお国が貧困を極めているのが現状です。**

**最近では2005年と2006年に大きな飢饉が発生し、その上、イナゴによる被害も加わり、食料不足が深刻な状態に陥った結果、餓死する人や栄養不足が原因で病気になる人々が増大するなど、大きな試練がありました。ここ数年は天候不順に加え、ニジェール川の洪水も食料不足を拡大させる原因となりました。この洪水の原因は単に大雨が降ったというだけでなく、上流の国のダムが放流された結果40数年ぶりという記録的な増水となりました。今回は私と清家常務理事とが９つの支援地域を訪問し、現状を視察し、住民の方々と意見の交換を行ってきました。**

主食のミレット、異常気象のため今年の収穫は3分の１に

### GB村

約1,500人が住むこの村の95%はクリスチャン。村の問題は、この後訪問した村にも共通していることですが、第一に主な作物であるミレット（粟の一種）が不作で、食料が不足していることです。雨の問題（少雨、大雨）もありますが、やせている土地に必要な肥料を購入することが出来ないのです。ここ数年、食料不足の際には野草を食べて飢えをしのぐ時もあったそうです。この食料不足のために、今年は７月に各家庭（7～8人）に100kgのミレットと50kgの米を配給しました（1.5～２ヶ月分の食料）。マラディーという町の子どもたちの５人に１人は栄養失調状態にあります。

第二は水の問題です。GB村では1500人の村人に対して、１つの井戸しかありませんでした。水脈までは80メートルもあり、村人だけでもう一本掘ることは到底できません。公的機関に新たな井戸の建設を要請するとともに、安全な水確保のための手動ポンプの設置が必要です。

第三はマラリヤなどの病気の問題です。壮健な大人でも厳しい病気ですが、栄養不足の幼い子どもならば致命的な病気となってしまいます。今回は蚊帳400セット分の支援を行いました。各村に、最低限必要な薬を常備することや医療がわかる看護師などが巡回することが今後の課題です。これらの問題以外にも、様々な生活物資の不足、子どもの教育の問題、エイズと孤児の問題。私たち、日本の豊かな生活を享受している者にとっては、想像もつかないような困難な生活を余儀なくされている人々の叫びを、行く先々でお聞きしました。

### 自立に向けた支援を

すでに行われている緊急食料支援は今後も継続する必要があります。しかし、緊急援助だけでは解決になりません。JIFHは常に自立開発協力を目指していますので、ニジェールの村でも自立できるように支援をしていきます。例えば、土地の改良。また、農閑期に現金収入を得るための活動、家畜（ヤギ、羊、牛）の飼育と繁殖もその一つです。ニジェールではイスラムの祭礼の前には家畜が高価で売買されるので、よい収入になります。このように生活が安定することにより、子どもたちが安心して教育を受けることが出来る環境になり、貧困から抜け出す糸口が見えてくるのです。

### 働く力と信仰

BF村のリーダーたちと懇談をしていた時、様々な必要が叫ばれていました。あれもない、これもないと。確かに本当にないのですが、あえてその村のリーダーである牧師先生にお尋ねしました。「何がないかは分かりました。では、皆さんには何があるのですか」少し考えてその牧師先生は握りこぶしを示しながら「私たちには働く力があります」。そして祈りの手を示しながら「そして信仰があります」と付け加えたのです。私はこれを聞いた時に、ここに希望があると確信しました。ないことだけに目を留めてあきらめていては何も始まりません。しかし、あることに目を留めた時に何かが始まります。

聖書に「金銀は私にはない。しかし、私にあるものをあげよう。ナザレのイエスの名によって歩きなさい」という言葉があります。ないことではなく、あることに目を留める。私たちも自分にはできないとあきらめるのではなく、自分にも何かがあると知ってそれを分かち合う時に何かが変わります。 多い少ないは問題ではありません。あるものを分かち合うのです。そこから愛は始まるのです。

私から始める、世界が変わる。これを実現するためにまず必要な事は、あることに目を留めること、そして分かち合うことです。どうぞ、一緒に始めませんか？

ハンガーゼロ・アフリカ。きっと神様が助けてくださり、実現できます。

飢餓の最初の犠牲者は幼子たちだ（岩橋理事長、孤児院にて）

注：村の名前は村の安全のためにイニシャル表記としています。

●支援はハンガーゼロ専用サイトからも出来ます　http://www.jifh.org/hungerzero/　ツィッターのフォロワー急速拡大中！

# 世界里親会 活動地のこども

## 里親さんからの便り

10月末現在で1550組の方々が世界里親会の里親として、開発途上国の子どもたちを支えて下さっています。このご支援によって、開発途上といわれる国々で暮らすこれらの子どもたちが、大きな希望をもって生きると同時に、家族や地域の人々の心の変革につながっていることを感謝いたします。

この喜びは受ける子どもたちのみならず、継続的に心をこめて支援してくださっている里親さんの励ましともなっていることが、里親部によせられるお便りから知ることができます。最近頂いたお便りの一部をご紹介します。

子どもたちは皆さんのお便りを楽しみにしています！

サポートをしているのではなく、真っ直ぐに未来に向けた視線からこちらが育てられています。環境に負けないで勉強を始めて、その勉強から社会へ貢献したいと願う手紙へと変化していく様子に、私たちが励まされたり感動をもらったりしております。
（北海道札幌市）

私は、学校のボランティア委員会に入り、色々な活動を通してもう1人の友達・里子を大切に思うようになりました。月一回、給食のおかずをがまんして、パンと牛乳だけにすると、里子やその家族を助けることができ、とても嬉しいです。また里子の生活を知ることもでき、自分たちの生活をふりかえる良い機会にもなっています。
（横浜市　小学6年生）

毎年送られてくる写真で彼らの成長を確認する喜び。里子訪問ツアーは忘れられない思い出。気づけば娘が国際協力に興味を抱き、夢の実現に向かって努力しているこの恵み。『与える』よりも『得る』ほうがずっと多い里親人生？です。
（愛知県一宮市）

**お急ぎ下さい！**

子どもたちへのクリスマスカードは、ＩＤ番号をお書き添えの上、11月15日までに世界里親会(大阪)までお送り下さい。

**里親募集** 世界里親会では、貧困と闘う子どもとその家族を支援して下さる里親を求めています。カンボジアとウガンダでは、支援を待つ50名の子どもがいます。ぜひ里親になってください。フィリピンの子どもたちの里親募集も準備中です。



## 2010 世界食料デー 現地報告

フィリピン駐在スタッフ　酒井慶子

給食プログラム

# ＝村人自らで問題解決に取り組めるように願って＝

私は2008年3月から夫と共にフィリピンに派遣されています。私たちは現地法人のHands of Love Philippines を通して貧困に苦しむ人たちの 自立支援をしています。Hands of Love Philippinesは、フィリピンの方がフィリピンの人を助け、また海外の貧しい人たちを助けるようになる事を目指しています。

私たちの活動地サンアンドレス村は、マニラからバスで２時間、船で1時間、ジプニーで3時間の所にある人口約1200人の小さな村です。

収入改善プログラム（有機農法セミナー）

米の二期作をしていますが、肥料や農薬の経費が高く平均月収は1800ペソ（約3600円）程です。子どもの25％は発育不良、みな小柄です。

### 石を食べて空腹をしのぐ

サンアンドレス村の人口の20％をしめる原住民マンヤンは、山の中に住んでいます。低地の人たちに安い賃金で雇われ、農作業をしますが、農閑期には仕事がありません。炭を作って売ったりするのですが、家族みんなの食物を買うのには十分ではありません。収穫前には空腹のまま床につくこともしばしばで、柔らかい石を食べて空腹をしのぐこともあるそうです。識字率が低く、衛生、医療に関しても理解が十分ではありませんので、こどもたちに予防接種を受けさせることもありません。

2008年2月に洪水に見舞われ、ほとんどの作物が被害にあい、彼らは半年分の収入を失いました。十分な食べ物がないということで給食プログラムを週に２回行い、子どもたちに学用品を配布する、という緊急援助が私たちの最初の活動でした。

この村にはハイスクールがなく遠くの町の学校に行くため、親戚に子どもを預けるか寮に入れる、それができない人は進学をあきらめる、という現状がありました。保護者の声と運転手の声を聞きあげ、助言し、始まったスクールバスプログラムで、今ではマンヤンの学生２人を含む64人の子どもたちがハイスクールに通っています。

村の将来を担う子ども達の教育、大人の識字、収入改善、農業の方法などさまざまなことに取り組んでいますが、私たちの活動が終わってコミュニティを出ても、住民が自分達で開発を続けていけることが大切です。そのためには、村の人々が自らに与えられている資源や能力に気づき、それを最大限に用いて問題に取り組めるようになる必要があります。

スクールバスプログラム

私は山奥に住むマンヤンを訪問するために川を超え山道を歩いている時、いつも考えます。私がこの山奥に生まれていたかもしれない。でも私は日本で生まれた。それでは私は日本人としてどんな役割を負っているのだろうって。

私たちは村の人たちに“Move toward God's intention！”神様のすばらしい計画に従って歩みましょう、と励まします。日本で神様が望まれている事を行っていくとき、世界から飢餓、貧困がなくなる日がくる と信じます。

2010年世界食料デー八尾西大会、酒井慶子スタッフ報告より抜粋